

# 本 会 記 事

## 1. 昭和55年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の昭和55年度総会および研究発表会は、9月9～10日に松山市の郵便貯金会館で開催された。今大会は、協議会の設立（昭和29年）以後、25回目に当り、かつて本会で活躍された方々もお招きして、参加者は約170名にもおよび、盛会であった。

### (1) 総 会

9日の午後1時から開催され、昭和54年度会務報告が承認されたのち、昭和55年度事業計画ならびに予算案が上程され、承認された。議長は愛媛県中予防除所長 高山昭夫氏。

### (2) 研究発表

10日の午前9時から12時まで、つぎの課題について研究発表が行われた。座長としては都崎芳久（香川農試）、松崎征美、山本 盤（以上高知農技研）の諸氏が当られた。

十河和博（香川農試）：イネもみ枯細菌病の種子消毒法

堀内崇裕\*・藤本健二\*・上村隆之\*\*・小林達男\*\*\*・川田洋一\*\*\*\*（\*高知県須崎防除所・\*\*県庁技術課・\*\*\*南国防除所・\*\*\*\*県農林技研）：2・3のべと病防除剤の単用および銅剤との混用がキュウリ斑点細菌病の発生に及ぼす影響

松本 英紀・安永忠道・久保博文・近藤武由・重松喜昭（愛媛農試）：白絹病のスイカ果実における異常発生

大熊 衛：佐々木善隆（香川農試）：香川県西部地域におけるツマグロヨコバイの薬剤抵抗性発達の推移

平野千里・廣田誠一（高知大）：ダイアジノン粒剤を施用した水田、灌漑水中のダイアジノン濃度

森 介計・荻原洋晶（愛媛果試）：ジコホールに機械油乳剤を混用した場合のミカンハダニの防除効果

大広 悟・尾崎幸三郎（香川農試府中分場）：香川県における宮本早生温州のウイルス病感染の実態について

上田 進\*・別宮岩義\*・向井宣廣\*・武智和彦\*・南条治彦\*\*（\*愛媛県南予防除所・\*\*今治普及所）：愛媛県の果菜類におけるベノミル耐性灰色かび病菌の分布

金磯泰雄・山本 勉（徳島農試）：イチゴうどんこ病の伝染経路

上森 実\*・松本英紀\*\*（\*愛媛県中予防除所・\*\*愛媛農試）：キク白さび病に対するフジワシ粒剤及びオリゼメート粒剤の施用効果

石井卓男・橘 泰宣・大森尚典（愛媛果試）：高接伊予柑のステムピッチングの発生程度がかいよう性と斑症及び果実肥大に及ぼす影響

### (3) 協 議

9日の14時から16時まで、本年度特異的な発生をした病害虫とその対策ならびに防除上の問題点（水田転換畑を含む）について、大塚啓二、野田弘之、松尾寿磨雄、上村隆之の諸氏が報告（要旨は126～136頁）された。また、四国地域のダイコンの根部黒変症状について、本間善久氏、かんきつ訪花害虫の生態と防除について、森 介計氏に話題提供していただき、活発な討議が行われた。

なお、座長として、野口義弘、西内美武、福西 務、尾崎幸三郎の諸氏が当られた。

### (4) 記念講演

愛媛県農業試験場長 竹内 学氏に普及事業の課題と研究対応について記念講演していただいた。